

令和元年7月30日

東部農林振興センター出雲事務所農業普及部

標題

J A しまね 斐川野菜苗生産70周年記念大会の開催

(ダイジェスト)

7月26日、出雲市斐川町においてJ A しまね斐川野菜苗部会の苗生産70周年大会が開催されました。

斐川町の苗生産は昭和23年から始まり、親子3代にわたる長い歴史のある部会で、生産・販売活動に積極的に取り組み、県内外に出荷されるとともに、地域の野菜生産の一翼を担っています。

J A しまね斐川野菜苗部会は、7戸で構成され、春苗、夏秋苗、たまねぎ苗が生産され、県内外の販売店に出荷されています。

斐川地域の苗生産は、昭和23年、スイカの連作障害回避のため、試験接ぎを始めたのがスタートで、その翌年、7名で「西瓜接苗組合」が結成されました。

スイカ苗から始まった苗生産は、その後、トマト、ナス、キュウリ等の果菜類、タマネギ、キャベツへと拡大され、その間、先進的な技術導入を始め、県内外への販売網の拡大に取り組みてきました。

主な活動内容は、次のとおりで、斐川町の野菜生産の一翼を担っています。

- ・接ぎ木技術や培養土の統一など品質向上と均一化
- ・種子・ポットなどの資材の一括購入による低コスト化
- ・部会員自ら種苗店等への営業活動を実施して販売先確保

J A 斐川地区本部管内では、70年継続している部会は例がなく、「〇代目会長は自分の祖父、〇代目は父」という人がおられ、親子3世代により引き継がれている部会です。

記念大会では、70年の間の取り組みや、台風等自然災害の被害を受けた苦労等の説明と若手生産者の決意表明があり、今後の一層の積極的な活動を確認する場となりました。

昭和23年といえば、農業改良助長法が制定された年であり、当時の普及員との協働で組み込まれたであろう活動に思いを巡らす大会となりました。



記念大会の様子